

「税」について考える

税務課 ☎0738-23-5504
FAX0738-24-2890

中学生の「税についての作文」

日高納税貯蓄組合連合会、御坊納税協会、御坊税務署は、御坊税務署管内の中学生を対象に「税についての作文」の募集を行った結果、1,322編の応募がありました。審査の結果、御坊市内から西川優里さんが、「大阪国税局長賞」に選ばれました。

大阪国税局長賞

御坊中学校

3年

西川
ゆうり
さん



作文紹介

題名 私の身近な大きなもの

私は、物心を持つてから初めて「津波警報」に遭遇しました。私たちが暮らす御坊市には被害が無かつたものの、災害にはどのように税が使われているのかに興味が湧きました。

令和7年7月30日、カムチャツカ半島沖でマグニチュード8・7の大きな地震があり、午前9時40分に私

の家の日高川に近い場所にあるため、家族がどうしているのか心配になりました。父に電話をすると、「今、蘭津波避難タワーにいる」と言いました。父は町内会長を務めており、津波警報が出たあと、一人暮らしのお年寄りの方に呼びかけて、避難タワーへ一緒に避難をしていました。今回、活用された避難タワーは誰が建てたのかなどが気になつて父に話を聞いたり、インターネットで調べたりしたところ、それらの多くが税で賄われている事を知りました。また、ニュースで見た被害があつた場所に自衛隊や警察、消防が派遣するための費用も税で賄われている事が分かりました。蘭津波避難タワーが建てられた経緯を父に聞くと、私が4歳である2014年に御坊市で最初に出来た避難タワーだと

想される津波警報が発表されました。その時私は、夏の吹奏楽コンクールに向けてのクラブ活動をしていました。私の住む地域では地震はなかったため、気にしていなかったのですが、突然スマートフォンから音声が鳴り始め、津波警報を表示する画面になりました。近くにいた先生や友人とともにすぐ机の下に隠れ、突然の事にとても焦りました。私の家の日高川に近い場所にあるため、家族がどうしているのか心配になりました。父に電話をすると、「今、蘭津波避難タワーにいる」と言いました。父は町内会長を務めており、津波警報が出たあと、一人暮らしのお年寄りの方に呼びかけて、避難タワーへ一緒に避難をしていました。今回、活用された避難タワーは誰が建てたのかなどが気になつて父に話を聞いたり、インターネットで調べたりしたところ、それらの多くが税で賄われている事を知りました。また、ニュースで見た被害があつた場所に自衛隊や警察、消防が派遣するための費用も税で賄われている事が分かりました。蘭津波避難タワーが建てられた経緯を父に聞くと、私が4歳である2014年に御坊市で最初に出来た避難タワーだと

の住む和歌山県沿岸で最大3mが予想される津波警報が発表されました。その後、南海トラフ地震が起きると御坊市へ最大17mもの津波が押し寄せて来ると予想されています。御坊市は、津波対策のために約一億五千万円の予算を立てて、津波が来る地域を「なんとかしなければいけない」と言う想いと「一人も犠牲者を出さない」という想いで、御坊市で最初の避難タワーを建設したことです。その後、御坊市には蘭地区、新町地区、名屋地区の3か所に避難タワーが建設され、地域の人々に安心を与える役割を果たしています。

御坊市の災害対策について調べてみると、最も重い「人の命」と、多額の税、が深く関わっている事に気づきました。私自身も、今回の事を通して、税がどのように使われている事が適切なのか考え続けたいと思いました。そして、「稻むらの火」の逸話で村人に避難を呼びかけ、地域の人々を災害から守るために広村堤防を建てた濱口梧陵さんのように、私たちの地域の安全のために私たちの税で避難タワーが建設された事に感謝の思いを持ち、南海トラフ地震が起きたときには、梧陵さんや父のように自身と地域の人々の安全のための行動ができるようになります。

令和7年度「税に関する中学生の標語」優秀作品

日高地方租税教育推進協議会は、税を考える週間（11月11日から17日）の一環として、「税に関する中学生の標語」の募集を行いました。

審査の結果、市内から右の皆さんが優秀作品に選ばれました。

税金で暮らしを守る 町づくり

河南中学校 3年

なかむら
中村 遥香さん

助け合い 税で広がる 笑顔の輪

日高附属中学校 1年

いとう
伊藤 早織さん

おさめよう 日本の未来を 守るため

名田中学校 3年

うえの やまかんた
上野山寛大さん